

せんそうじだい はなし き かい  
戦争時代のお話を聴く会

せんそう わす  
わたしは戦争を忘れない



みらい つた き おく  
—未来に伝えたい記憶—

日時：平成30年8月2日(木) (水戸空襲の日)

平成30年8月15日(水) (終戦の日)

両日とも午前10時～12時

会場：茨城県立歴史館 講堂

(水戸市緑町2-1-15)

※会場は水戸市立博物館ではありません

話者：8月2日(木)

こすげつぎ お  
小菅次男さん (83歳)

みつはしてる こ  
三橋昭子さん (91歳)

8月15日(水)

まえじま  
前島キヨさん (92歳)

みむら たかし  
三村 節さん (95歳)

※両日とも水戸  
空襲の解説が  
あります。



いま ねん い しょうまえ ちゅうごく  
今から70年以上前、中国やアメリカ  
との戦争が激しくなる中で、生活のす  
べてが戦争一色に染まっていきまし  
た。そんな時代に人々は、何を思い、ど  
のように戦争と関わったのでしょうか。  
お話を聴いてみましょう。

にゅうじょうむりょう もうしこみふ よう  
入場無料・申込不要

お問合せ先 ☎029-226-6521

主催：水戸市立博物館

## 8月2日のお話し



しょうわ ねん がつ にち みめい み と しょうくう ぐん  
昭和20年(1945)8月2日未明、水戸上空にたくさんのアメリカ軍  
ばくげき き あらわ ばくだん お も さか ほのお なか こすげ  
の爆撃機が現れ、爆弾を落としました。燃え盛る炎の中を、小菅  
とう じ しょうがくせい みつはし こく민がっこう せんせい き ぬ  
さん(当時小学生)、三橋さん(当時国民学校の先生)はどのように切り抜  
けたのでしょうか。水戸空襲の体験をお話していただきます。

## 8月15日のお話し

せんそうちゆう せんち むか へいたい ちいき まも しみん たいへんくろう  
戦争中は、戦地に向った兵隊も地域を守る市民も大変苦労しました。  
せんそうが げ しくなる中を 水戸で すごした 前島さん、せんご ねんかん  
戦争が激しくなる中を水戸で過ごした前島さん、戦後、11年間もシ  
ほりよせいかつ おく みむら けいけん  
ベリアで捕虜生活を送った三村さんは、どんな経験をしたのでしょ  
うか。戦争時代の生活をお二人に語っていただきます。

